



年頭のご挨拶



高山村長
後藤 幸三

止に弛まぬご努力を続けておられます皆様へ、改めて心から敬意と感謝の意を表します。

世界に目を向けると、令和4年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は長期化し、未だ解決の道筋は立っていないようであります。また昨年10月にはイスラエル軍とガザ地区ハマスの武力衝突が報じられました。繰り返される愚行を目の当たりにし、平和であることの大切さを感じるとともに、平和を求め続けることの大切さを改めて痛感しているところでございます。一日も早い終息を願うばかりであります。

日本では、コロナ禍及びウクライナ侵攻に端を発した物価高騰も高止まりの感がありますが、ようやく落ち着きを取り戻しつつあるように思われます。物価高による個人消費の下押しはあつるものの、賃金上昇を追い風に回復傾向にあるとされています。まだ実感として感じられないところはありますが、一日も早く景気回復が実感できるようになればと期待しているところでございます。

高山村においては、昨年9月にオープンした「たかやま未来センター『さとのわ』」の経営も順調に推移しており、交流の拠点として地域の活性化に資するものと考えており、村民の方々に喜んでいただける施設としてまいります。

老朽化している役場庁舎をはじめ、ふれあいプラザ、水道管や橋りょうなどのインフラ施設対策、バス路線などの公共交通対策、買い物弱者対策、耕作放棄地や獣害被害対策、観光振興対策、気候変動への取り組みなど課題は山積しており、いづれも早急に対策を講じなければなりません。検討を加速し効果的かつ効率的な方法を模索してまいりますと考えております。

目指すところは「笑顔で輝く高山村」でございます。目標の実現に向け施策を講じてまいりますので、村民皆様のお一人層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が村民皆様にとって幸せに満ち、充実した年となりますよう心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶いたします。

明けましておめでとうございませう。令和6年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は公私ともにひとかたならぬご指導とご鞭撻を賜り、また、日頃より村政全般にわたりご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の対応に明け暮れ4年間に経過いたしますが、ようやく感染症法上の位置づけが2類相当から5類へととなり、一応の収束を見ることができたものと思っております。長期にわたり感染拡大防



年頭にあたって



高山村教育委員会 教育長
山口 廣

新年あけましておめでとうございませう。

村民皆様には、ご家族お揃いで令和6年の新春を健やかなうらに迎えられることと心よりお慶び申し上げます。

旧年中はひとかたならぬご指導とご鞭撻を賜り、誠にありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症による影響も落ち着きをみせ、学校教育、社会教育、芸術文化・スポーツ分野において、規模の縮小もありますが、コロナ前と同じように実施できるようにになり、村民の皆様とともに喜んで

います。

その中でも、中学生海外派遣事業が実施できたことが、大変良かったと思っております。今回はコロナ禍で実施できなかった関係で、中学2年生と3年生を対象とし、希望を募ったところ多くの生徒が参加してくれ、充実した研修となりました。

また、現在の高校1年生と2年生が中学校時代に海外派遣事業が中止になった関係で、海外に行くことができませんでした。

しかし、多くの方の理解により、昨年8月に高校2年生を対象として、高校生海外派遣事業を企画し、シンガポールに派遣することができました。参加者の感想には、実施していただいた感謝の気持ちと海外での研修がこれからの生活に活かせる趣旨の内容が多くみられ、教育委員会としてもうれしく思っております。

残念なこともありましたが、村民運動会の中止です。村民運動会はこれまで分館対抗で実施してきましたが、選手が集まらな

い分館が多くなり、分館長会議で大会の中止の方向が出されました。来年度以降も分館対抗の村民運動会の実施は、難しいだろうという意見が多く出されました。

村民の皆様が集まる大会などの要望も多いため、村民運動会に変わる年齢を問わず希望者が誰でも参加できる大会の企画を考えていきたいと思っております。その時にはぜひ参加いただき村民同士の交流を深めてもらえればと思っております。

結びに本年が村民皆様にとつて幸せに満ち、充実した年となりますようご祈念申し上げます。年頭のあいさつといたします。





新年のあいさつ



高山村議会議長
山口 英司

新年あけましておめでとうございませう。

村民皆様には、令和6年の新春を健やかに迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

旧年中は議会活動につきまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、4月の統一地方選挙において、新人5名を含めた議員10名による議会の新体制が発足しました。村民皆様の思いを大切に、村民福祉と活力ある高山村の実現に向け、議員一同全力で取り組んでまいります。

翌5月には、新型コロナウイルス感染症が、徐々に落ち着きを取り戻してきたことから、法に基づく位置づけが「5類」に変更されました。感染症で停滞していた経済活動やスポーツ・イベントなどが徐々に再開され、コロナ前の日常に近いところまで回復してきました。

世界に目を向ければ、ウクライナ情勢とパレスチナ情勢が懸念されます。コロナウイルスや地域紛争は、エネルギー価格や物価の高騰を招き、私達の生活に深刻な影響を及ぼしています。一刻も早い紛争の終結を望むばかりです。

さて、村の中心地づくりの一翼を担う、たかやま未来センター「さとのわ」は、オープン後一年余が経過しました。運営状況が心配されましたが、順調に推移している様子です。アフターコロナによる観光需要の高まりで、今後の集客も期待できそうです。更なる発展のため、関係者の努力と村民皆様のご協力をお願いするものです。

役場庁舎整備に関しては、施

設の老朽化と耐震補強等の観点より、新庁舎建設を含めた何らかの対策が必要です。役場庁舎は村民生活の重要な拠点であり、その対応は喫緊の課題です。村では「たかやま5つのゼロ宣言」を表明し、地球温暖化の原因とされる、温室効果ガスを削減するための取り組みも始まっています。カーボンニュートラルを活用した取り組みと合わせ、次世代までを見据えた庁舎整備を、検討・提言していかねばなりません。

今般の新型コロナウイルス感染症拡大を契機に、多くの議会において、デジタル化・ペーパーレス化推進の機運が急速に進んでいます。本村議会でも速やかな課題解決に向け、タブレット端末等による議会運営など、デジタルの活用を促進してまいります。

結びに、村民皆様にとって本年がより良い年になりますよう、ご多幸とご健勝を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。